

現在、世界では、約5人に2人が、安全に管理された衛生設備(トイレ)を利用できていません。そして、約4人に1人が、家庭で基本的な手洗い設備を利用できていません。LIXILとユニセフは、すべての人々が安全で清潔なトイレや手洗い設備を利用できることを目的としたグローバル・パートナーシップ「MAKE A SPLASH!(以下、MaS!)」を通じて、アジア、アフリカの活動対象6カ国において衛生課題の解決に取り組んでいます。

MAKE A SPLASH! パートナーシップ

ケニアでの活動事例

*2023年7月31日現在

ケニアは、特に農村部で深刻な衛生問題を抱えています。日常的な屋外排泄の割合は国全体で減少しているものの、2019年時点で農村部を中心に470万人に上ります。2020年には基本的な衛生設備を利用できたのは人口のわずか35.2%です。多くの家庭では、他の家庭と限定的なトイレを共有していたり、衛生的でない設備を利用しています。病気の蔓延を防ぎ、地域の健康を改善するには不十分な状況です。これらの衛生課題を解決するために、パートナーシップ「MAKE A SPLASH!」を通じて、衛生設備の利用促進や需要喚起、衛生市場強化の取り組みや学校の衛生設備の改良、女子児童の月経時の対応を含む衛生習慣の促進などの取り組みが行われました。また、学校の保健委員会(教師と児童で構成)や教職員、地域コミュニティに対する衛生の啓発と、衛生設備の運用・メンテナンス能力向上の取り組みも行われました。下記はその活動の成果です。

- 【啓発、衛生市場・サービス】7郡で衛生制度の強化、すなわち地元の職人や地域保健ボランティアの能力向上、衛生改善のための金融サービスの利用促進、衛生習慣の啓発活動を支援。107,270人が少なくとも基本的な衛生サービスを利用できるようになりました。
- 【トイレ設備】2018年以来、7郡で503,000人が少なくとも基本的な衛生サービスを利用できるようになっています。これには100,645台の簡易トイレシステム(SATO)や他の衛生製品の設置が含まれます。2022年に実施した日本のみんなにキレイをプロジェクトの支援を受けて、これまでに手頃な価格で衛生設備を入手できる市場が4郡に拡大され、7郡に達しました。41,445台のSATOが設置され、207,225人が少なくとも基本的な衛生サービスを利用できるようになりました。
- 【手洗い設備】15万人が3万個のSATO Tapを使って基本的な手洗い設備を利用できるようになりました。
- 【学校の支援】学校トイレ改善プログラム(STEP)は、4つの郡の17の学校で既存の学校衛生の取り組みに試験的に統合され、2022-2023年に5,468人の児童が学習環境で安全なトイレを利用できるようになりました。



@UNICEF Kenya



@UNICEF Kenya

「学校トイレ改善プログラム」(STEP)

2022年には、MaS!パートナーシップは、ケニアのムウィンギ北部の10の学校に「学校トイレ強化プログラム」(STEP)を試験的に採用し、生徒3,718人に恩恵をもたらしました。STEPは手頃な価格で入手しやすい簡易トイレ(SATO)の有用性を確かめると同時に、衛生設備の維持・管理の強化トレーニングや衛生教育を通じて子どもたちの健康と環境改善に直接貢献します。STEPはまた児童に衛生的なトイレを提供すると同時に、地域社会に衛生需要を生み出しました。対象校に通う子どもの保護者の何人かは、地域の保健ボランティアとして訓練を受け自助グループを結成しました。これらのグループは、学校の集会で他の保護者にSATOを広めています。

これにより、当初はプロジェクトに参加していなかった学校が、SATOを導入するようになってきています。このプログラムはまた、学校の教職員と子どもたちに、女子児童の月経時の対応を含む衛生行動を促進し、児童の糞口感染の減少にも貢献しています。



@UNICEF Kenya

- * 下記パートナーシップ活動の一部にみんなにキレイをプロジェクト資金を使用
- * 2022年～2023年の活動の成果

